

..... 編集後記

◆ 明けましておめでとうございます。2011年の新しい年を迎えました。気持ちも新たに、この一年をしっかりと歩んでいきましょう。年頭に当たっての加藤GSJ代表の巻頭言は如何でしたか。「十年一昔」といいますが、10年が経つと様々な面で新たな進展が見られるものです。私たちのこれまでの活躍・実績、ならびに今後の意気込みと活動に、読者皆様方のご理解とご支援・ご協力をお願いしたいと思います。

さて、今月号は「空中探査」に関する特集記事7編と一般記事4編による構成となっています。

◆ 前述の通り、10年が経つと空中探査システムについても新たな進展が見られ、10年前に産総研で空中探査に係わるシンポジウムを開催してから大きな進展が認められました。そこで、今回大熊氏が中心となってそれらをまとめていただいています。空中探査は、航空機に計測機器を搭載し、空中を飛行しながら種々のデータを取得し、その情報から地球内部の構造や状態を知ることができる探査法です。広い領域を迅速に遠くから情報を得ることができる優れたもので、興味深い話題がいっぱいとなっています。

◆ 初めに大熊氏ほか、この10年間における産総研における空中物理探査の変遷を有珠山や富士山の調査を通して紹介して下さっています。噴火等でアクセスできない地域の調査に有効であることが詳しく紹介されていますので、じっくりとお読み下さい。

◆ 瀬川氏は、自前で国産の空中重力計を開発し、測定精度を検討した模様を詳しく報告して下さいます。私も化学分析をするので、常に測定結果の精度に関心を持つ気持ちがよく理解できます。

◆ より深い地下構造を探査するために地表に電流送

信装置を設置する空中電磁探査法が近年開発されており、茂木氏ほかに彼らが開発した、地表電場ソース型時間領域空中電磁法を紹介していただいています。どのようなものか、じっくりとお読み下さい。

◆ 空中探査は広い領域を迅速に遠くから情報を得ることができる優れたものですから、いろいろなセンサーを搭載して調査すると、多くの情報を得ることができます。こうしたことから実際に総合的に調査した結果を、結城氏ほかに紹介していただきました。

◆ 宇津木氏は、手作りの空中磁気探査システムによる口永良部島火山や九重火山の調査結果を紹介して下さいます。本特集の最後には、南極観測用の小型無人飛行機システムを開発して、空中磁気探査を試みたことを、海外での運行のご苦労話とあわせて船木氏に紹介していただきました。

◆ GSJの研究者の中には、海外調査経験から様々な海外情報がありますが、ベトナムでの生活を2年間ほど経験した船引氏から、あちらの様子を紹介していただきました。現地你的生活スタイルや社会主義国での調査の大変さなどがにじみ出ています。続く高橋氏は、国内の仙台近郊の地質見学案内をしており、フィールドを巡る気分で読んでいきましょう。

◆ ゲーテと地質学との関わりは本誌583号でも紹介されていますが、国分氏からは新しい視点で見たゲーテ像を取り上げていただきました。連載で続きますので今後も楽しみです。また、ゲータイトに困って青木氏に様々な形態の含水酸化鉄鉱物の紹介を口絵でしていただきました。最後は斎藤氏による地質図商品の話の締めくくりです。読者の皆様におかれましても、良い年でありますよう。(金井 豊)

地質ニュース編集委員会

委員長：金井 豊

事務局委員：宮内 渉

委員：重松紀生・杉原光彦・中嶋 健・森尻理恵・七山 太・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース

第677号 2011年 1月号
定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費

2011年1月1日 発行

編集

発行人

発行所

産業技術総合研究所
株式会社 実業公報社
代表者 林 光生
株式会社 実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073
Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952
http://www.jitsugyo-koho.co.jp
E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp
振替口座 00110-6-32466
麹町局私書箱第21号

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

●地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

© 2011 Geological Survey of Japan